

音楽に新しい時を告げる、セイコー・デジタル・サウンド・システム。



音楽の時代。そう呼ぶのがふさわしいほど、現代は音楽が盛んです。それでも、もっとも面白い音の世界があるはずだ。長年培ってきたエレクトロニクス技術を駆使すれば、未体験のサウンドが作り出せる。そう考えて、SEIKOは、いまミュージック・シーンにデビュー。まったく新しい電子楽器「セイコー・デジタル・サウンド・システム」を完成しました。キーボード本体(DS-202、DS-101)と、シンセサイザー・ユニット(DS-310)、シーケンサー・ユニット(DS-320)をもつユニークなサウンド・システムです。

●
SEIKOだから。倍音加算型のデジタル音源を採用。一音一音が、新発見。

このシステムは、従来のアナログ・タイプのキーボードとは、発想の原点から違います。まず、音の根本である音源に、倍音加算型のデジタル音源を採用。ひとつひとつの音が、今までになかった豊かな表情をもっています。とくにシンセサイザー(DS-310)による音づくりでは、各倍音の自由なコントロールが可能。従来つくり得なかった音も、自分の目と耳で確かめながら、自在につくり出すことができます。

SEIKOだから。データはすべてデジタル処理、新しい音づくりが可能になった。

音源だけではなく、このシステムでは、すべてのデータをデジタル処理しています。そのため、データ処理能力は飛躍的にアップ。これまでにない諸機能が可能になり、高度な音楽性を容易に表現できるようになりました。たとえば、2つの音を自由な割合で混ぜられるサウンド・ミックス(DS-202に搭載)。とくに、シンセサイザー(DS-310)でつくり出した音をミックスさせれば、音の世界は無限に広がります。さらに楽譜通りに入力できるシーケンサー(DS-320)も大きな魅力。従来のコンピュータ入力方式(アルファベット、数字等で入力)に比べると、格段に使いやすくなりました。

SEIKOだから。巨大システム同様の機能が、こんなにコンパクトで身近になった。

倍音加算方式を始めとする諸機能は、従来、大型コンピュータで、大量のデータを高速処理して始めて可能になったもの。それを、SEIKOの技術の粋を集めて、よりコンパクトで身近にしたのが、このデジタル・サウンド・システムです。さらにMIDI規格用インターフェイス・ボックス(別売)で、MIDI対応のキーボードやコンピュータ等と接続できるので、可能性はどこまでも広がります。音楽を愛する人すべてに、最先端の音をお届けする「セイコー・デジタル・サウンド・システム」これからの音楽の方向性を象徴する画期的なシステムです。